



John

ジョン・ジャーム
2016-17年度国際ロータリー会長



No.1 2

Takasago Rotary Club

週報

高砂

クラブ会長方針

“素晴らしい仲間を持とう”

- ① ロータリーは親睦から
- ② 利他の心を持とう
- ③ フィロソフィを持とう

例 会 記 録 (2016. 9. 30 (金)) 通算3,096回

◆開 会

◆唱 歌 ロータリーソング「我らの生業」

◆「四つのテスト」唱和

◆ゲスト紹介

高砂市まちづくり部まちづくり推進室 参事 天川智哉氏
高砂市企画総務部総務室 参事 森 裕史氏

◆来訪ロータリアン 高砂青松RC 都倉達殊会員

◆歓迎歌「松の緑」

◆プログラム予定

10月7日 (金)	10月14日 (金)	10月21日 (金)	10月28日 (金)
卓話「伊能忠敬」 高塚 洋様	休 会 (定款第6条第1節(C)による)	合同例会 高砂プロバスクラブ との合同例会	移動例会 「職場例会」 三菱日立パワーシステムズ(株) 高砂工場

◆入会式

鎌谷 雅彦氏



◆出席報告

本日 9月30日 会員数38名 出席者24名 出席率 72.7%
前々回 9月 9日 会員数38名 修正出席者38名 出席率100.0%修正

◆MAKE-UP

脇谷 政孝会員	高砂青松RC	9月28日 (9月30日)
桂田 重信会員	高砂青松RC	9月21日 (9月30日)
西田 秀雄会員	高砂青松RC	9月21日 (9月30日)
山川 晃禎会員	e-CLUB	9月21日 (9月30日)
後藤 純次会員	e-CLUB	9月25日 (9月30日)
後藤 純次会員	e-CLUB	9月25日 (10月7日)
落合 計夫会員	e-CLUB	9月23日 (9月16日)
落合 計夫会員	e-CLUB	9月23日 (9月 9日)
守光 隆会員	e-CLUB	9月20日 (9月16日)
守光 隆会員	e-CLUB	9月15日 (9月 9日)
丸山 恵右会員	e-CLUB	9月29日 (9月30日)
脇谷 政孝会員	高砂青松RC	9月14日 (9月11日)

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

中野 哲郎会長……親睦・出席委員会のみなさま楽しい家族例会をありがとうございます。
高砂市役所の森様・天川様、本日はよろしく申し上げます。
大村 泰司会員……待望の「高砂美術館」本日開館致しました。機会があれば是非お立寄り下さい。

◆幹事報告 (3,096回)

〈国際ロータリー日本事務局より〉

◎『2016年10月のレートのお知らせ』が届いております。

〈ガバナー事務局より〉

◎『国際ロータリー第2680地区ガバナーエレクト事務所開設のお知らせ』

◎『2016-2017年度ローターアクト関西四地区交流会のご案内』

◎『グローバル補助金プロジェクトへのご協力のお
願い』

◎『審議会代表議員の選出方法について』

◎『会長エレクト研修セミナー（PETS）資料一式
送付のご案内』

〈例会変更のお知らせ〉

◎姫路南RC

10月10日(月) 休会

10月31日(月)「職業奉仕フォーラム」

「第二回ほろにが会」

16:00～ 職業奉仕フォーラム

17:30～ 例会

18:00～ 第二回ほろにが会 於：ホテル日航姫路



豊田克義幹事

〈その他〉

◎姫路中央ロータリークラブより

『2016年10月の例会プログラム予定』が届いています。

◎rotarian 10月号

◎鬼怒川水害義援金報告書

◎明石南ロータリークラブ

『2016～2017年度東播1グループI.M.開催のご案内』

◎高砂市共同募金委員会

平成28年赤い羽根共同募金（職域募金バッチ）の協力について

◎高砂ロータリークラブ

第20回高砂観月能広告協賛の御礼並びに確認

◎柏原ロータリークラブ

創立50周年記念誌完成

◎兵庫県肢体不自由児者協力「手足の不自由な子どもを育てる運動」
が届いております。

◆会長の時間

4つのテストの中にある、「みんなに公平か」について話をしたいと思います。この「みんなに公平か」という言葉は、なぜ「みんなに平等か」と言わないのでしょうか。それは、「平等」と「公平」、この似た言葉、実は大きな違いがあるからです。その違いの認識なしに使用され、実行されていることが、世の中を悪くしている大きな原因の一部となっている。先ず、言葉を定義してみよう。



中野哲郎会長

「平等」 個人の資質、能力、努力、成果に関係なく一定の規則通りに遇するシステムとなっていること。

「公平」 すべての人に対し、機会が均等に与えられており、成果を上げた者が評価され、報われるシステムとなっていること。

人間社会は「公平」でなければなりません。これを「平等」と勘違いしている愚か者が社会システム造りに参画すると、とんでもないことになります。世界では100年あまり前に国家レベルで、「すべての人間は平等でなければいけない」という考え方が生まれ、かなりな数の国で「平等実験」が行われました。結果はそれらの国のすべての経済体制が破綻し、人間は「平等」いう考え方で集団をつくと殆どの方が「最も低い能力の者に合わせた力を発揮する集団」になるということが判りました。考えてみれば当然でしょう。うんと働いても少ししか働かなくても報酬が同じならば、多くの人間はだんだん働かなくなる方向へ行くのは目に見えています。

これに対して資本主義では、働きの良い者と悪い者の報酬には多大な格差があります。この格差があるからこそ人は、「自分ももう少し頑張って報酬を増やそう」と考え、社会システム全体が進歩してきました。人間社会、否、生物の社会では格差が生じるのは当然のことであり、むしろ、格差が社会を進歩させる原動力となるわけです。

それでは、全く自由に放任すれば、社会システムは良い方向へどんどん進化するのでしょうか。そうでないことは過去の歴史を見れば明らかです。私たちは正常な格差が生じるようなルールを見つけねばなりません。この考え方の基礎となるのが「公平」です。

公平の定義にあるように、人間はすべてに「自らの努力次第でどんなに大きくも成長出来る機会」が均等に与えられている事が必要です。人種、国籍、家柄、性別等による活動制限を合理的ルールで極力取り除き、どのような人でも、どのような方向にも挑戦することが出来、成果があればきちんと評価されるシステムとなっている必要があります。公平なシステムが機能すると社会は良い方向へ進化します。

したがって高砂ロータリークラブの友愛奉仕活動助成金事業は、「平等」ではなく「公平」「公正」に運用されてきました。

◆本日のプログラム

卓話「新庁舎建設について」

高砂市企画総務部 森裕史参事

高砂市まちづくり部 天川智哉参事



